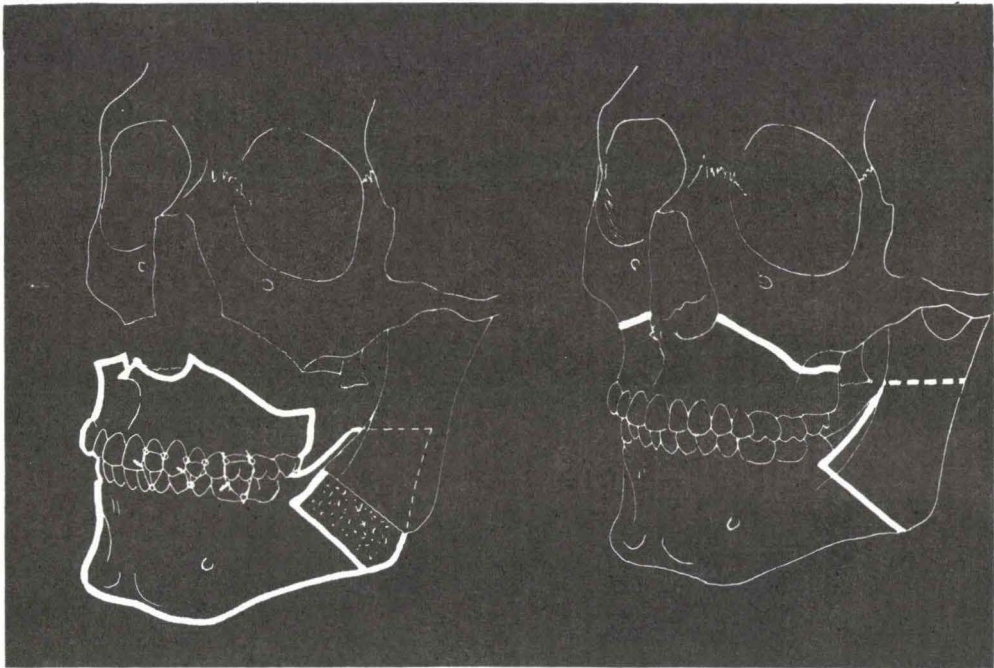


京大広報

No. 371

京都大学広報委員会



顎顔面骨変形症に対する上顎骨，下顎骨骨切り手術による上下顎骨同時前方移動手術の術前（右）と術後（左）

—関連記事本文 710 ページ—

目 次

将来計画検討委員会審議報告書……………	702	目 誌……………	711
名誉博士称号贈呈式……………	709	<資料>	
学内での火災発生……………	710	平成元年度入学試験諸統計……………	712
栄誉（森田 雄平名誉教授）……………	710	<随想>	
<紹介>		老人病院偶感 名誉教授 寺松 孝…………	716
医学部口腔外科学講座……………	710		

〈大学の動き〉

将来計画検討委員会審議報告書

このたび、将来計画検討委員会から、本学のキャンパスの在り方及び教育研究体制に関する将来構想について報告がありましたので、ここに報告書の全文を掲載して広く学内にお知らせします。

今回の報告のとりまとめに至るまでに払われた、将来計画検討委員会委員各位のご尽力に対し、敬意と感謝の意を表します。

平成元年5月9日

総長 西 島 安 則

.....
平成元年4月20日

総長 西 島 安 則 殿

将来計画検討委員会

委員長 深 海 浩

本委員会は、「第三次答申（昭和61年12月23日）」以降、本学のキャンパスの在り方と教育研究体制に関する将来構想について審議を重ねてまいりましたが、その結果をここに報告いたします。

京都大学将来計画検討委員会審議報告書

Ⅰ. はじめに

将来計画検討委員会は、昭和61年末までに、第一次から第三次にわたる3回の答申を行い、本学の教育研究体制及びそれに即した施設の整備に関する基本的なガイドラインを提示した。その後、本委員会は、それらの基本的な考え方に沿って、本学のキャンパスの在り方と教育研究体制に関する将来構想について検討を重ねてきた。ここに、その審議結果を報告する。

Ⅱ. 京都大学のキャンパスの再生と新キャンパスの構想について

京都大学が所有している教育研究の諸施設は、北海道から鹿児島までの広範な地域に存在するが、その中心をなすものは京都市左京区にある北部構内、本部構内、西部構内、教養部構内、医学部構内及び病院・薬学部構内の6地区からなる約74haの吉田キャンパスと、宇治市五ヶ庄にある約22haの宇治

キャンパスである。

このうち、特に吉田キャンパスは、一見してすぐ分かるとおりに、高密度が主たる原因となって、学園環境の劣化に直面している。この状況を打開するために、現在、諸々の基本方策を立てて対応を急がなければならない局面にあり、その方策の一つとして、一部の施設を新キャンパスへ移すことも検討する必要があると考える。しかし、吉田キャンパスの100年に及ぶ歴史によって培われた伝統と良好な都市環境に恵まれて周辺地域と共に発展してきた経緯を考えると、新キャンパスへの移転は、その規模の大小にかかわらず、永年にわたる貴重な蓄積の一部を失うことにつながるとともに、周辺地域、さらには、京都市に少なからぬ影響を及ぼすおそれもあり、慎重な配慮を必要とするところである。

さらに、本学における教育研究の高度化と新しい教育研究機能の創生を図るためには、現有キャンパスの再生に積極的に努力を続けることと併せて、新しい機能の創生に伴う諸施設の収容に適した新キャンパスの取得をも必要としている。このことは、本委員会からのこれまでの答申に繰り返し強調されてきたところであり、第一次答申に述べられたとおりに、新キャンパスを含めた本学の将来計画の実現には、十分な熟慮と検討に加えて、これを達成するための情熱と、それに値する「夢」のある計画が必要であることはいうまでもない。

以上のことを踏まえて、吉田キャンパス再生の在り方と、ありうべき新キャンパス像の構想について、以下に述べることとする。

Ⅱ-1. 吉田キャンパスと新キャンパスの機能分担について

吉田キャンパスは約74ha、それに対して求めるべき新キャンパスについては、第一次答申において約100haが必要であるとし、第三次答申において関西文化学術研究都市（以下「学研都市」と略す。）の南田辺・狛田地区を特定している。この地は、現在の公共交通機関で吉田キャンパスより約1時間の圏内にあり、今後の公共交通機関、道路網などの整備の進展に伴って、さらに時間的に短縮される可能性がある。自然環境に恵まれ、加えて、電力、ガス、上下水などの基幹施設の整備が併行して進むことを考えれば、候補地として妥当と考えられる（この地区の地勢、地質、植生など自然条件等の調査結果については、京都大学将来計画検討委員会専門委員会『関西文化学術研究都市に関する調査報告書（昭和63年3月）』参照）。

現段階でこれを新キャンパスの立地とみて、既存キャンパスとどのように性格を分け、機能分担するかを考えるには、本学全体のアカデミックプランが主要な基盤となるのは当然である。しかし、ここでは、それぞれの立地の特徴を比較して考えると、次のような事柄を挙げるができる。

- 1) 京都市から見て、吉田キャンパスは都心部に近く、新キャンパスは周辺郊外に当たる。吉田キャンパスの再生については都心型キャンパスの理想像の追求を、新キャンパスは郊外型、あるいは新都市型キャンパスの理想像の実現を目指す。
- 2) 吉田キャンパスでは、都市との関連で深い蓄積を持つ分野、都市との積極的な交流を必要とする分野の教育研究の場を、他方、新キャンパスでは、ゆとりある自然や田園的環境に適した分野、都市活動と比較的独立できる分野、あるいはシステムの情報交流によって独立して機能しうる分野の教育研究の場を追求する。

- 3) 現有キャンパスで行われている教育研究が既存施設に深く負っているか、長い蓄積の上に継続されているもののなかで、移転等によって著しく損なわれるおそれのある分野は現在の場を中心に再整備を行う。他方、学術研究の進展に伴う専門性の深化の結果生じた新しい教育研究機能は、新キャンパスに場を求める。
- 4) 大学における教育研究には、研究能力の育成とともに、豊かな情操の涵養も要求されている。このためには、大学キャンパスは、その周辺部との調和を含めて熟成度の高い環境が必要である。新キャンパスの初期段階において、このような成熟した雰囲気をも最初から求めることは不可能で、当面、学部学生を中心とした教育の場は吉田キャンパスに置くことが妥当であろう。しかし、新キャンパスの成熟につれて人的構成が適正なものとなるように予め全学的な長期計画を策定しておくことが必要である。
- 5) 学研都市全体計画との連動で、海外からの研究者、留学生等との混住型の新しい都市をつくることなどが望まれている。むろん、それらは現有キャンパス周辺においても必要であるが、土地を求めることが困難であり、新キャンパス内、又はその周辺に企画することが適当と考えられる。即ち、新キャンパスに国際学園都市形成の中核的役割を与える。

以上、それぞれの立地の特徴によって新旧両キャンパスの分担すべき機能について述べたが、一方を都心型、もう一方を郊外型といっても、両者の位置の隔たりは僅かである。それぞれ相互に受け持つべき機能は、新しい大学の理想像を目指した共通項を多分に含みながら、再生と新生の違いのなかに特質を生かし、相互の交流による総合的な発展が望ましい姿である。

II-2. 吉田キャンパスの再生について

吉田キャンパスは、吉田山、東山、鴨川などの自然の風趣に恵まれ、良好な環境にあるうえ、都心部に近く、文化や学問の都としての京都市全体との関係は緊密である。大学は、都市にとって知識を集積した文化的空間であり、都市は、大学にとって生活的、文化的養分の母体であり、学生を含めて大学人の気質の形成を都市に負うところが大きいことを思えば、吉田地区は理想に近い大学キャンパスの要件を備えているといえよう。

しかし、京都大学は、一貫して吉田地区を中心に発展し、それを補完するものとして宇治地区に第二のキャンパスをひらいたとはいえ、現在、吉田キャンパスは、既に施設の「建て詰まり現象」を引き起こし、学園環境の劣化に直面している。このような状況にある吉田キャンパスの土地利用計画にかかわる重要な問題は、主として次の三点にまとめられよう。

第一は、第三高等学校を引き継いで明治30年以来今日に至るまで、吉田地区を中心に、拡張と再開発を繰り返して現在に至っている歴史的経過に拘束されていることである。

第二は、吉田地区の周辺の都市的地理的条件である。良好な住環境地帯であり、また、美観地区として都市計画的規制がかけられ、それに拘束されている。

第三は、社会的諸条件の変化が、キャンパスの状況に大きな影響を異常な速さで及ぼした点である。特に、高度経済成長時代の影響、ベビーブーム、大学進学率の上昇などによって引き起こされた急激な拡張は、高密度化によるさまざまな歪みを生じ、加えて、モータリゼーションの発達が土地利用上の混

乱を引き起こしている。

このような問題点を考慮しながら、吉田キャンパスを再生するについては、周辺地区との調和を重んじながら、許される範囲内での空間容積の効率的利用を工夫し、できる限り平面空地を生み出して学園環境の整備を計画しなければならない。

このような規模の大きい再整備には、それに先立つ空地利用による先行整備が必須の条件である。しかし、吉田キャンパスには既にそのための「種地」すら見いだせない状況にある。このような実情からしても、吉田キャンパスの学園環境の劣化克服の諸施策の実施にとって、新キャンパス開発計画との緊密な連携が不可欠であり、新キャンパス用地の早急な取得が強く要望される場所である。

なお、吉田キャンパス再生の長期的計画のなかに、基幹緑道、植栽豊かなキャンパス広場などキャンパスの統合的イメージを形成する空間の確保が含まれることは当然のこととしても、これとは別に、将来の教育研究機能の新しい展開によって必要となる新施設の整備に直ちに対応できる用地を常に備えておく必要がある。このような用地は、利用可能な土地が逼迫した状況のもとでは、その場の都合で短期的視点から利用され易いけれども、新キャンパスの土地利用との総合的な計画などによって、将来にわたって確保されなければならない。

Ⅱ-3. 新キャンパスの構想

新キャンパス候補地としての南田辺・狛田地区の概観については、既に本委員会の第三次答申及び専門委員会の『関西文化学術研究都市に関する調査報告書』に述べられている。新キャンパスは、当然、この地区の中心施設として重要な役割を果たすものと予想され、その周辺には良好な住宅地を中心とした街づくりがなされることと思われる。新キャンパスとこれらの街は、互いに開かれた関係にあり、それぞれの機能を補完しあう関係にあることが望ましい。したがって、新キャンパスの今後の在り方が、対象区域及び学研都市全体に及ぼす影響を考慮して、街づくりを先導する卓越したキャンパスづくりを構想しなければならない。

新キャンパスに置くべき諸施設のレイアウトに関する基本計画は、全てその基盤となるアカデミックプランの成否にかかっている。京都大学の教育研究の総合的長期計画は、その作成が如何に困難な作業であろうと、今後とも、全学的な立場にたつて鋭意努力を重ね、完成を急ぐ必要がある。既に、その全体像の基本については、第一次から第三次にわたる答申に述べられているとおりであり、その線に沿って、既存キャンパスにある教育研究体制の整備も含めて、新キャンパスの利用計画を立てなければならない。ここでは、基本企画の一つとして、新キャンパスに次のような機能をもつ施設の設置を提案したい。

1. 人的組織や運営に流動性を導入した新しい形の学際的教育研究機構
2. 学術の専門性深化の結果生ずる新しい教育研究組織とりわけ大学院
3. 情報システムを整備した新しいタイプの図書館
4. 生命科学や環境科学などに関する応用研究のための広域実験実習園場
5. キャンパスのシンボルであると同時に、地域との交流にも貢献する大学ホール
6. 国際学園村（企画は京都大学が推進するとしても、建設や運営は全国的組織をもって充てる。）

これらの施設の他に、種々の厚生施設、学生会館、広い範囲の人達を対象にした言語文化教育や生涯教育などの研修施設、健康、体育のための総合運動施設、地域医療にも開放される診療機関などの整備が必要となる。

これらのうち、本委員会は「1. 人的組織や運営に流動性を導入した新しい形の学際的教育研究機構」について検討を重ねてきたので、項を改めてその内容を述べる。

Ⅲ. 学際的流動研究教育機構の構想

京都大学は、常に、伝統的に基礎研究を重んじ、人文・社会・自然科学の諸分野において、自由にして創造的な学術研究の発展につとめてきた。また、それと同時に、教育が教官の研究を土台としてその上に展開されてきたばかりでなく、学生の学習自体の中に研究的要素が組み込まれるなど教育と研究との有機的関連を保ちつつ、大学としての機能を果たしてきた。従来、これらの研究や教育は、部局を構成する講座や部門を主要な場として展開され、ある特定の基礎的課題を掘り下げて、専門性の深化を促してきたといえよう。このような特色は、大学の本来あるべき姿からみて、今後とも積極的に保持され、継承されなければならないものである。

現在、学問の諸領域は、ますます細分化していくと同時に、それぞれの研究の専門性は、いよいよ深化の度合いを早める趨勢にある。この傾向は、学問の本性そのものがもたらすものであり、必然の結果として将来もさらに加速されることはあっても、鈍化するとは考えられない。しかし、一方では細分化された各領域の研究の諸成果や諸々の過程を統合し、部分的認識を全体的真理へと高める方向もまた学問に課せられた重要な使命である。従来は、この二つの、互いに相補的ではあるものの、性格の異なった使命を、どちらについても講座や部門という同一の場で同時に遂行してきたのが実情である。

このような経緯をかえりみると、今後の大学における教育研究の発展には、既存の組織と並列して、学際性の追求を主眼とした総合化を図る新しい型の創造的柔軟性をもった組織を設置することが、いまや京都大学にとって重要な課題である。今日、早急にその対策を講ずる局面を迎えているといえよう。

学際性・総合性を主眼とした新しい教育研究の機関には、それにふさわしい人的構成と物的施設が要請される。それは、既存の部局の延長線上にあるものもあれば、そのいくつかの部分的結合ないしは再編成によって達成されるものや、全く新しい組織・機構の創出を必要とする場合もある。

恒久的な性格の講座や部門を単位として構成されている従来の大学の教育研究の機関を縦系になぞらえるならば、いま新しく考えようとする学際性・総合性を主眼とした柔軟な組織体としての教育研究の機関は横系の役割を果たすものであり、両者相補的に運営されて、車の両輪として機能するならば、未来に向けての「理想的な大学」という見事な布地を織り出すことができるであろう。

大学における講座や部門の使命の一つに、特定の学問分野の奥義を窮めることが課せられている以上、講座や部門の研究課題と人的組織のある程度の恒久性は不可欠の条件であり、単なる社会的要請や個人的趣向などによって軽々しく変更されるべきものではない。しかし、一方では、現代社会の急激な進展がもたらす重要な諸々の問題に対して、単なる対症療法的な対応ではなく、その基本にかかわる基礎的対応の総合研究を大学に求めている現状にある。大学が、その主体性を貫くことを基本としなが

ら、これらの要請に応えるために柔軟な人的構成と可変的な組織をもつ学際性を主眼とした教育研究機関の設置が要望されることである。勿論、長期的基礎課題追求型の従来の大学の教育研究の諸機関と、これらの総合的学際的な流動型の機関とが有機的に連携を保つことによってこそ、真の総合大学としての機能が発揮されることは強調するまでもない。ここに、このような新しい創造的流動性をもった機関の企画の一つとして、『学際的流動研究教育機構』の構想を提案する。

『学際的流動研究教育機構』の取り上げるべき対象課題は、既に第一次答申に掲げられたものを中心に考えてよいであろう。

元来、自然・人間・社会の諸事象は相互に密接な有機的関連のなかに存在しているものであって、その研究もまた、こうした視点から、学際的かつ総合的に展開されるべきものである。ここに学際性・総合性というとき、それはひとり自然科学、あるいは人文・社会科学内部でのそれを意味するものではなく、むしろ、両者の総合という視点を意味している。この視点を十分に認識した上で、

1. 科学技術自体が要求する学際性・総合性
2. 人間の生命に直接かかわるところから来る学際性・総合性
3. 人間社会と自然環境との調和にかかわる問題の学際性・総合性
4. 国際地域総合研究
5. 情報総合科学
6. 科学技術の発達によって生ずる社会的諸問題の研究

などの諸課題を挙げることができる。もっとも、対象分野は、これだけに限られたものではなく、このほかに、数多くの課題があり、そのいずれも学際的・総合的な視点から積極的に検討の対象として取り上げていかねばならない。

〔参考〕

『学際的流動研究教育機構』の組織と運営

イ. 『機構』は、いくつかの『流動研究教育機関』から構成される。それぞれの機関は、全てが画一的な構造のものである必要はなく、その目的によって人的構成や運営様式に個性をもつ。

ロ. 『機構』は、これらの機関の総合的運営を企画し、それぞれの機関の研究教育支援組織を総括する。

ハ. 『機関』の構造様式の例を想定すると、次のとおり。

- 1) 機関そのものが、その教育研究の目的を遂行するために、存続期間が、ほぼ恒久的な組織体である場合。ただし、この場合でも、その機関を構成する部門は、教育研究課題、人的構成、運営様式、存続期間などにおいて、機関の基本企画に従って『流動性』を保つ形態をとることが必須の条件である。
- 2) 機関の存続がある決められた期間である場合。例えば『新分野の開拓』を目的に、人文社会科学と自然科学の分野の共同による継続的研究フォーラムの場であるような場合。勿論、この成果として、上記 1) の性格をもつ新しい半恒久的機関の誕生を促す結果となることもあろう。

また、文部省科学研究費補助金などによる大型総合研究や民間との共同研究などの実施に際

して、広い範囲にわたる研究者の共同研究の場としての活用も考慮の対象となるであろう。

- 3) 現今の大学教官の日常活動を念頭において将来を考えると、数年に一度程度「学内サバティカル」とでも称する制度を採用することが望まれる。それは半年ないしは1年にわたって本務から解放され、個人としての充電の期間に供するか、あるいは数人の計画でかねてから意図していた共同研究の期間に充てるなどに活用する。そのような活動の場と便宜を提供する機関も企画されてよいであろう。
- 4) このほかにも、規模の大小とり混ぜて、いろいろユニークな形態や運営様式のものと考えられよう。

ニ．学際的流動研究教育機構の計画と運営にかかわる問題点

- 1) 機構（並びに各機関）と学部、大学院との相互関係。附置研究所との性格の違い。
- 2) 流動性を保つための運営方式。特に、人的構成の流動性を促す方式。
- 3) 現存の諸制規からの制約との関連事項
- 4) 時限の機関（あるいは部門）のなかでの特殊な大型研究機器の設置と取扱い
- 5) その他

これらの問題点は、全て予め十分に検討を加えておかなければならないことは当然としても、とりわけ、2) の流動性を保つための運営方式が最も重要な検討課題である。それぞれの「機関」、ひいては「機構」そのものの存在意義の根源は、何はさておき、機能の創造的流動性にほかならず、しかも、それは人的構成の流動性の保持に尽きるであろう。そのためには、機関・機構の運営に、それぞれの個性に従って、種々独創性に富んだ独特の方式が工夫されるのが理想であり、必ずしも、総括的基本型を考える必要はないであろう。

IV．おわりに

冒頭にも述べたとおり、本報告は、第一次から第三次にわたる答申の内容の底に流れる基本的考え方に沿って、本学のキャンパスの在り方と教育研究体制の将来構想に関して検討した結果をまとめたものである。本委員会がこのような作業を行ってきたのは、「本学発展の基本方向を見極めるに時機を失することのないよう」に、新キャンパス確保も含めて、本学の将来に資するさまざまな構想が部局等から提案されるのを待つだけでなく、学内にこれらの構想が芽生え、さらに成長することを推進する役割を担うのも本委員会の重要な責務の一つと考えたからである。

現在、本学では、既に各部局等において多様な将来構想の胎動が見受けられるが、なかでも、「情報学部」や「総合人間学部」及びそれらと関連する「情報学研究科」及び「学術総合研究科」の構想は実現へ向かって、その具体化が進められている。これらの構想のなかには、「学際的流動研究教育機構」の考え方を一部取り入れて、学際性・総合性を重んじた創造的流動性を主眼とした組織を創出する企画も含まれていると聞く。また、「学際的流動研究教育機構」の構想を下敷きにして、「太陽と土と生物に関する総合研究教育機関」（またの名を「生物機能開発研究教育機関」）、「基礎工学研究教育機関」、「国際地域研究教育機関」などについても構想の検討が、初期的段階にあるとはいえ、鋭意続けられていると聞く。

本委員会は、その発足の経緯からして、総長の諮問に対して検討しその結果を答申することを任務としており、その具体化を図る機関ではない。したがって、京都大学の将来にかかわるこれらの構想の具体化を推進することは本委員会の任務を超えるものと考えられる。それ故、これらの多様な構想を実現へとつなげるためには、それらを全学的立場から整理し、全体的構想へとまとめて具体化を積極的に推進することを任務とする新しい性格の組織が必要であり、その速やかな設置が望まれる。

名誉博士称号贈呈式

5月10日(水)午前10時30分から、総長室において各研究科長及び関係者出席のもとに名誉博士称号贈呈式が挙行され、国際量子分子科学アカデミー会員、元工学部教授ジョージ・ガーフィールド・ホール氏に名誉工学博士の称号が贈呈された。

また、贈呈式の当日、同氏の記念講演が附属図書館A Vホールにおいて行われた。演題は「What is a University?」である。

以下に授与の趣意及び同氏の略歴を紹介する。

(趣意)

国際量子分子科学アカデミー会員、George Garfield Hall 氏(連合王国)は、理論化学とくに分子の電子構造理論の発展に顕著な業績を挙げ、理論化学に多大の影響を与えてきた。

同氏の分子の電子構造に関する研究は、理論化学の基盤を与えるものであり、とくに分子の電子分布の計算とその解析法における新しい試みは、数多くの具体的応用例とともに、理論化学の発展に大きく寄与するものである。

化学反応理論に関する研究では、分子の電子理論における基礎的概念、すなわち、電子分布によって定められるポテンシャル場の概念を発展させて、静電的相互作用の重要性に注目した理論モデルによって、化学反応のおこり易さを表現した。

同氏は数学的思考の重要性を種々の具体的問題の解決、あるいは問題提起をもって実証的に示した。その対象はきわめて広範なものであるが、いずれも数学的思考の重要性、すなわち、数学教育の重要性を指摘したものである。

アモス・ホールの方法とよばれる理論によって、量子論の数学的基礎の発展に大きな貢献をなしたことはとくに著名である。

本学では、1983年10月に同氏を、「国立又は公立の大学における外国人教員の任用等に関する特別措置法」による京都大学最初の教授としてむかえた。

同氏は、1988年3月までの4年半の間、本学大学院工学研究科分子工学専攻に在職、教育研究にたずさわり、若手研究者を育成するとともに創設間もない同専攻の運営に尽力し、さらに本学の学術的国际交流にも多大の貢献をした。

よって、同氏に京都大学名誉工学博士の称号を授与することは適当である。

(略歴)

George Garfield Hall

1925年3月5日生 国籍 連合王国

1946年7月 英国クイーンズ大学理学部数学科、数理物理学科卒業

1947年7月 英国クイーンズ大学理学部物理学科卒業

1950年4月 英国ケンブリッジ大学助手(1955年9月まで)

1951年6月 理学博士(英国ケンブリッジ大学)

1955年10月 英国ロンドン大学インペリアル校数学科講師(1961年9月まで)

1962年10月 英国ノッティンガム大学応用数学科教授(1982年8月まで)

1982年10月 英国ノッティンガム大学名誉教授

1983年10月 京都大学教授(工学部)(1988年3月まで)



名誉博士称号贈呈式 一総長室一

学内での火災発生

5月3日早朝、本部構内事務局棟北側生活協同組合1階倉庫付近から出火し、倉庫の壁面約3㎡と屋根約5㎡を焼失した。たまたま付近を通りかかった工学部建築系学科3回生、土井宏悦、吉田晋、永松潤一及び山本 茂の諸君が発見し、消防署へ通報するとともに、本部表門衛所守衛と協力して極めて適切な初期消火活動を行ったため、付近の建物には延焼せず損害を最小限に食い止める

ことができた。

また、ほとんど同時に経済研究所1階電算準備室においても火災が発生した。

これら2件の火災は、左京消防署及び川端警察署による現場検証の結果、不審火(放火)による火災と推定された。

このような不審火が昨年より学内で頻発している。火災の発生の防止には教職員・学生の一層の協力をお願いしたい。

<栄 誉>

森田 雄平名誉教授(元食糧科学研究所教授 農芸化学)

わが国学術の向上発展のため顕著な功績をあげたことにより平成元年4月29日紫綬褒章が授与された。

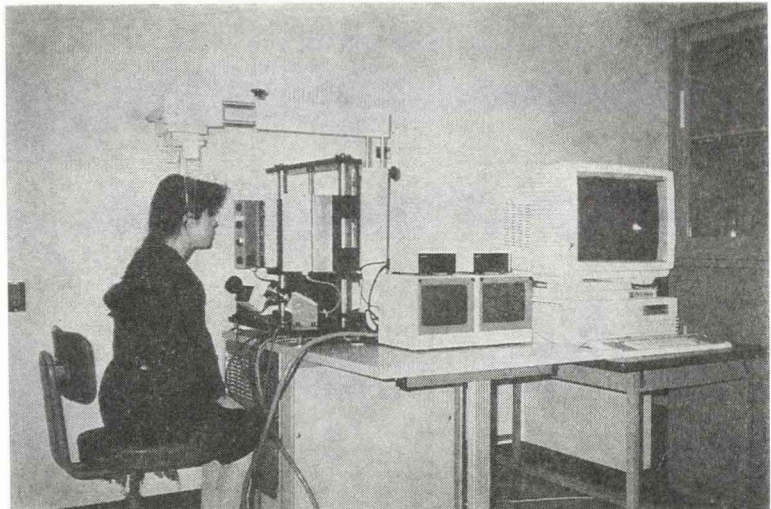
<紹 介>

医学部口腔外科学講座

医学部口腔外科学講座は昭和24年に設置された。診療科名は歯科口腔外科で、歯と顎と口腔顔面にかかわる形態と機能の異常を専門的に治療している。また本学には歯学部が無いので、歯科医学に関連する多くの研究課題をかかえて、基礎研究、臨床研究に励んでいる。

教室の主な研究テーマは先天的あるいは後天的顎発育異常による顎顔面変形症(日本人に最も多いのは下顎前突症である)の形態と機能の分析、並びに外科的矯正手術の評価に関する研究である。これらの目的のために術前頭部エックス線規格撮影による日本人顔面の硬組織と軟組織の分析と比較、頭蓋に対する上下顎骨と歯牙咬合の状態を判定する顎態分析、さらにモアレトポグラフィーによる顔面の3次元的分析などを行っている。

最近、非接触型レーザービームによる3次元的コンピュータ分析装置を本学医用高分子研究センター歯科材料応用研究部門と共同で開発した(写真)。顎顔面変形症の治療に当っては、顔面と口もとが対象となる。「顔」や「口もと」は人の「個性」と関連するだけに、その手術プランニングの基礎データとなる研究は極めて重要である。関連領域の研究者の協力が望まれる。



非接触型レーザービームによる3次元的顎顔形態分析装置

「口が開きづらい」、「口を開く時に関節で音がする」と訴える「顎関節症」の患者が増える傾向にある。「発言、会話」と「咀嚼、摂食」は人にとって必要不可欠な機能である。顎の関節は下顎骨の左右両側に位置し、これに付着する咀嚼筋によって上下、左右、前後に自由に動き、上下歯列による咬み合せ（咬合）によって解剖学的位置が規定されている。さまざまな原因で上記のような症状が発現するが、これらを解明するために歯科学的、機能的、形態的研究が行われている。歯とくに臼歯がなくなると咬み合せが深くなり関節への負担が増大する。ラットを用いた実験では顎関節を構成しクッションの役目をする関節円板に傷が生じることが明らかになっている。顎の動きを3次元的に解析するために下顎の切歯にマグネットをセットし、複雑な動きを分析して診断に役立てている。手術的治療が必要となった時の関節への外科的侵襲の影響と歯の治療過程をラット、兎を用いて研究しているが、手術前に咬み合せを整えておいた方がより良好な治療が得られる事がわかってきている。また、直径2mm前後の細い内視鏡により顎関節内部の病態を明らかにし、内視鏡

的手術を行って好結果を得ている。

臨床医学を研究する学徒にとって「悪性腫瘍」は避けて通れない問題である。口腔癌（舌、下顎、上顎、頬粘膜など）は癌のうちのせいぜい4%程度にすぎないが、口腔の機能を考えるとき、口腔癌の問題は極めて重大である。主に臨床病理学的ならびに組織学的研究が活発に行われているが、手術的摘出だけでは治療は終了せず、手術後の再建や補綴物による機能と形態の回復が重要であって、臨床系各科との共同研究、共同治療が行われている。歯を喪失した後に装着する義歯に代って最近ではチタン製のインプラントをこれらの障害を有する症例に応用して、最大限に機能の回復をはかる試みも一貫した治療の一部として行われている。

この他、最近増加の傾向がある顎顔面骨々折に対する治療を通じて、より早期の骨接合治療を得るためのミニスクリューとミニチタンプレートによる接合法の臨床応用とその評価、無歯顎下顎堤へのハイドロキシアパタイト（人工骨）填入による顎堤の回復などの臨床研究もさかんに行われている。（医学部）

日 誌

(1989年4月1日～4月30日)

- | | | | |
|------|--|-----|---|
| 4月6日 | 名誉教授称号授与式 | 18日 | 評議会 |
| 7日 | 医療技術短期大学部入学式 | 19日 | 国際交流委員会 |
| 10日 | カナダ自然科学工学研究会議 Arthur W. May 議長ほか4名来学、総長及び関係教官と懇談 | ク | 国際交流会館委員会 |
| ク | カナダ World Economic Forum 財団 Maurice F. Strong 会長ほか1名来学、総長と懇談 | ク | ポーランド人民共和国ポーランド科学アカデミー Andrzej Ziabicki 教授来学、総長と懇談 |
| 11日 | 学部入学式 | 21日 | 環境保全委員会 |
| ク | 大学院入学式 | 24日 | ブルガリア人民共和国 Sofia 大学 Ivan Sakarev 学長ほか1名来学、関係教官と懇談 |
| 12日 | 体育指導センター管理運営委員会 | 25日 | 総長、職員組合との交渉に出席 |
| 14日 | 組換え DNA 実験安全委員会 | 26日 | ソビエト社会主義共和国連邦高等教育問題研究所 Nikolai N. Nechaev 副所長ほか2名来学、総長及び関係教官と懇談 |
| ク | ヨルダンハシミテ王国 Jordan 大学 Abdul S. Majali 学長ほか1名来学、総長及び関係教官と懇談 | 28日 | 防火委員会 |
| | | ク | 同和問題委員会 |

〈資料〉

平成元年度入学試験諸統計

1. 募集人員, 志願者数, 合格者数, 入学者数, 合格者最高点・最低点(総点)等調

学部・日程	募集人員	志願者数	第1段階 選抜 合格者数	受験者数	合格者数	入学者数	満点	総点			
								最高点	最低点		
文学部	前期	190	849	762	745	221	225	700	525.33	438.08	
	後期	30	327	213	133	31		700	553.25	490.25	
教育学部	前期	40	204	164	157	57	67	1,000	784.58	663.57	
	後期	20	161	140	102	21		1,000	794	688.99	
法学部	B	400	1,777	1,406	1,389	404	399	650	528.5	439.75	
			53	39	36	19					16
経済学部	前期 一般	140	507	507	482	170	246	800	628.75	525.75	
	前期 論文	60	592	270	262	70		1,050	737.25	561.25	
	後期	40	269	199	120	65		5	950	689.65	571.05
			41	16	14	7					
理学部	前期	276	1,533	1,478	1,445	321	306	850	762.5	605.25	
	後期	30	1,326	1,275	1,101	31		400	378	323	
医学部	前期	110	682	550	537	140	124	1,250	1,094	940.25	
	後期	10	179	156	122	10		1,250	1,014.5	966	
薬学部	前期	50	189	189	177	68	92	1,000	819.83	675.5	
	後期	30	170	170	114	36		1,000	792.58	710.91	
工学部	前期	617	2,605	2,168	2,140	643	1,031	1,000	890.75	710.83	
	後期	413	2,044	1,780	1,280	475		1,000	858.41	694.08	
農学部	前期	260	1,010	916	894	296	339	1,050	788.5	616.75	
	後期	65	513	513	392	78		850	709.45	568.99	
小計	前期	1,743	8,171	7,004	6,839	1,986					
	後期	638	5,030	4,462	3,378	754					
	B	400	1,830	1,445	1,425	423					
合計	2,781	15,031	12,911	11,642	3,163	2,850					

(備考) 1) 法学部, 経済学部後期の下段は, 外国学校出身者のための入学者選考を示す。

2) 合格者数には追加合格者を含む。

3) 合格者最高点・最低点(総点)は前期(3月12日), 後期・B日程(3月23日)の合格発表時のもので, 法学部・経済学部の外国学校出身者のための選考を除く。

<工学部・農学部学科別内訳>

学部・日程・学科	募集人員	志願者数	第1段階 選合格者数	受験者数	合格者数	入学者数	満 点	総 点		
								最高点	最低点	
工 学 部	前期	617	2,605	2,168	2,140	643	1,031	1,000	890.75	710.83
	後期	413	2,044	1,780	1,280	475			858.41	694.08
土木系学科	前	75	294	266		77	125	1,000	835.91	715.16
	後	50	258	213		58			817.83	723.16
機械系学科	前	52	271	190		54	87	1,000	840.83	760.08
	後	35	179	167		40			841.75	758.08
電気系学科	前	80	311	282		85	130	1,000	886.75	789.83
	後	50	213	213		52			858.41	763.66
金属系学科	前	50	196	177		51	79	1,000	860.08	719.41
	後	30	159	127		40			828.08	742.58
建築系学科	前	55	258	201		57	95	1,000	838.66	750.41
	後	40	202	179		46			825.41	743.5
工業化学科	前	35	112	112		37	55	1,000	819.66	714.75
	後	20	85	85		25			788.16	719.08
石油化学科	前	35	157	125		35	55	1,000	838.16	714.25
	後	20	106	81		23			797.91	702.66
化学工学科	前	25	92	88		26	45	1,000	819.08	710.83
	後	19	100	77		25			763.5	694.08
高分子化学科	前	25	83	83		26	45	1,000	817.41	727
	後	20	96	89		22			809.83	715.5
合成化学科	前	25	80	80		27	45	1,000	837.75	723.91
	後	20	82	79		20			761	704
資源工学科	前	25	138	92		25	40	1,000	802.83	712.08
	後	15	91	61		19			814.83	732.58
航空工学科	前	15	91	57		18	25	1,000	890.75	795.16
	後	10	74	44		12			838.16	745.58
原子核工学科	前	15	46	46		16	25	1,000	853	724.33
	後	10	38	38		11			813.5	742.5
衛生工学科	前	25	79	79		26	46	1,000	821.5	717.25
	後	20	91	83		22			817.25	703.83
数理工学科	前	27	121	97		27	45	1,000	872.33	776
	後	18	92	90		21			839.75	759.08
精密工学科	前	25	135	92		27	43	1,000	827.25	737.83
	後	18	101	77		20			783.5	720.16
情報工学科	前	28	141	101		29	46	1,000	886.16	796.5
	後	18	77	77		19			846.91	757.33
農 学 部	前期	260	1,010	916	894	296	339	1,050	788.5	616.75
	後期	65	513	513	392	78			850	709.45
農 学 科	25	(前期 20名 後期 5名)		26						
林 学 科	25	(前期 20名 後期 5名)		25						
農 芸 化 学 科	38	(前期 30名 前期 8名)		45						
農 林 生 物 学 科	19	(前期 15名 後期 4名)		21						
農 業 工 学 科	46	(前期 37名 後期 9名)		45						
農 林 経 済 学 科	40	(前期 32名 後期 8名)		44						
水 産 学 科	26	(前期 21名 後期 5名)		27						
林 産 工 学 科	37	(前期 30名 後期 7名)		36						
食 品 工 学 科	39	(前期 31名 後期 8名)		41						
畜 産 学 科	30	(前期 24名 後期 6名)		29						

2. 志願者・入学者 出身高校所在都道府県別調

上段……………志願者数
下段……………入学者数

都道府県	学部										計	都道府県	学部										計													
	文	教育	法	経済	理	医	薬	工	農	計			文	教育	法	経済	理	医	薬	工	農	計														
北海道	25	4	18	31	61	24	1	58	25	247																										
東 青森	4	4	9	1	7	4	1	8	1	39	近 三	16	3	25	12	29	7	2	50	13	157	重	7		10	3	6	1	1	18	3	49				
	2	1	2		1	1	1		8	滋		20	9	25	14	30	5	8	73	32	216		賀	4	3	5	1	2		3	14	8	40			
	4	1	6	3	9	5	2	13	4			47	京	112	46	160	132	139	73	33	448			145	1288	都	18	5	43	22	19	10	8	93	34	252
	1		1		3				6			大		155	68	376	235	421	107	81	919			307	2669		阪	33	13	74	49	46	11	23	233	73
11		7	10	21	2		25	7	83		兵			70	25	166	129	169	126	37	442	129		1293	庫			15	5	55	30	28	34	9	118	32
1	1	3	2	10	6	1	10	3	38	畿 奈				37	8	62	61	107	36	15	236	56	618	良				9	1	18	16	18	9	5	63	19
9		3	5	15	3	1	6	1	43				和	13	1	18	13	29	8	2	39	12	135			歌		5	1	2	2	3	1	1	10	
1		3	1	3			1	6	鳥			5		1	13	9	21	2	3	18	9	81	取				1		1	2	3		1	3	5	16
7		9	5	19	7		18	11			76	中		10	6	11	11	15	2	1	33	10			99		島	2	2	4	1	5		7	1	22
3		3		4			2	1		13	岡			14	9	38	17	48	12	9	75	21		243	山			5	4	10	3	5	1	3	14	3
7	3	8	9	35	7	2	36	11		118			国 廣	35	15	38	31	68	20	5	138	19		369		島		5	3	7	8	4	2	2	23	4
9	1	10	4	14	2		22	5	67	山				12	2	19	11	28	5	8	46	10	141	口				3		6	3	3	2	1	15	2
14	2	17	12	22	5	1	24	13	110			徳		5	4	18	11	4	7		13	2	64				島	7	2	7	2	1		4	1	17
2		1	3	2	1		5	4	18		四 香			10	2	23	20	28	10	5	47	9	154		川			3	1	7	6	4	1		14	2
27	12	41	28	92	13	4	99	52	368				愛	13	6	24	16	33	16	10	60	19	197			媛		5	2	4	3	1	4	1	15	6
3		2	1	4	1	1	9	5	26	高				6		7	2	15		1	24	7	62	知				1		2					3	3
36	6	44	38	140	21	7	132	52	476			福		18	12	56	30	100	21	14	137	39	427				岡	3	3	14	8	12	3	6	37	10
4	2	8	4	15		2	22	11	68		九 佐			1		8	3	2	2		10	1	27		賀			1		1		1			2	
158	40	126	173	367	104	31	390	178	1567				長	10	2	18	6	20		3	26	13	98			崎		2	2	5	2	3		2	8	4
25	4	9	24	22	11	5	49	31	180	熊				13	3	15	8	22	2	1	19	13	96	本				3	1	2		2		1	4	2
67	16	61	84	209	32	16	256	98	839			大				1	19	7	19	4	4	10	8				72	分			4	1	2	2	1	5
9	1	6	7	14	6	4	30	16	93		宮			5		4	6	10	5	2	9	4	45		崎		2			2	2	1	1	2	3	1
10	1	9	5	29	6		30	8	98				州 鹿	19	4	12	23	33	38		54	16	199			児	4			6	3	6	6		11	4
9	3	17	1	18	1		45	14	108	沖				1	1	3	3	5	1		5		19	縄			2			2					1	
1		6		3			15	3	28			検		9	2	14	21	28	21	2	12	7	116				定			1	1	2		1	2	
12	5	15	10	28	6	4	42	3	125		其			2		54	42	2			3		103		他					16	5					
1	1	4	2	3	3	1	13	1	29				合	1176	365	1830	1409	2859	861	359	4649	1523	15031			計		225	67	415	251	306	124	92	1031	339
18	6	8	7	22	4	5	36	7	113																											
6	3	5	3	4		1	13	2	37																											
4	1	5	1	8	7	1	18	2	47																											
1				3		1	3	1	9																											
27	3	18	8	44	3	5	40	11	159																											
4	1	1	2	7			8	1	24																											
8	3	25	9	36	10	6	52	12	161																											
2	1	5	5	6		1	14	4	38																											
19	3	24	24	50	22	12	87	21	262																											
7	1	1	4	4	1	2	18	4	42																											
78	20	121	66	178	37	13	257	82	852																											
16	4	36	10	17	5	1	74	19	182																											

(備考) 外国学校出身者のための選考を含む。
 法学部……志願者 53名, 入学者 16名
 経済学部…… “ 41名, “ 5名

3. 志願者・入学者 入学資格取得年別調

検…入学資格検定合格者, 専…高等専門学校出身者, 他…高校, 高専, 検定以外の者

学部	志 願 者						入 学 者					
	総 数	現 役 元.3卒	63.3卒	62.3卒	61.3卒	60.3以前	総 数	現 役 元.3卒	63.3卒	62.3卒	61.3卒	60.3以前
文学部	1,176	631	357	103	33	52	225	127	77	12	5	4
	女 271 検 9 他 2	女 187 検 3 他 1	女 55 検 3 他 1	女 14 検 1	女 2 検 2	女 13	女 61	女 48	女 11	女 1		女 1
	53.7	46.3					56.4	43.6				
教育学部	365	202	105	29	10	19	67	44	19	2		2
	女 102 検 2	女 80 検 2	女 16	女 2	女 1	女 3	女 32	女 27	女 4	女 1		
	55.3	44.7					65.7	34.3				
法学部	1,830	1,058	557	128	42	45	415	272	130	6	2	5
	女 338 検 14 他 54	女 242 検 9 他 54	女 67 検 3	女 13 検 2	女 6	女 10	女 105 検 1 他 16	女 88 検 1 他 16	女 14			女 3
	57.8	42.2					65.5	34.5				
経済学部	1,409	709	475	121	54	50	251	135	94	14	3	5
	女 102 検 21 他 42	女 68 検 4 他 42	女 21 検 5	女 5 検 2	女 4 検 4	女 4 検 6	女 24 検 1 他 5	女 20 他 5	女 4			検 1
	50.3	49.7					53.8	46.2				
理学部	2,859	1,623	786	229	87	134	306	175	108	18	3	2
	女 204 検 28 他 2	女 123 検 12 他 1	女 48 検 8	女 12 検 2	女 8 他 1	女 13 検 5	女 14 検 2	女 7 検 1	女 6 検 1	女 1		
	56.8	43.2					57.2	42.8				
医学部	861	372	166	74	36	213	124	68	40	9		7
	女 95 検 21 専 2	女 43 検 4 専 1	女 18 検 4 専 1	女 8 検 5	女 2 検 2	女 24 検 6	女 6	女 3	女 2	女 1		
	43.2	56.8					54.8	45.2				
薬学部	359	215	99	20	9	16	92	54	30	7		1
	女 128 検 2 専 2	女 90	女 31 検 2	女 2	女 3	女 2 専 2	女 29 検 1	女 20	女 9 検 1			
	59.9	40.1					58.7	41.3				
工学部	4,649	2,608	1,688	227	49	77	1,031	535	463	30	1	2
	女 190 検 12 専 4 他 3	女 107 検 4 他 3	女 67 検 7 専 2	女 5 検 1	女 1	女 10 専 2	女 43 検 2	女 25	女 18 検 2			
	56.1	43.9					51.9	48.1				
農学部	1,523	748	522	170	42	41	339	149	157	24	6	3
	女 228 検 7 専 3	女 144 検 4 専 2	女 75 検 3	女 5	女 2	女 2 専 1	女 55	女 34	女 20		女 1	
	49.1	50.9					44.0	56.0				
合計	15,031	8,166	4,755	1,101	362	647	2,850	1,559	1,118	122	20	31
	女 1,658 検 116 専 11 他 103	女 1,084 検 42 専 3 他 101	女 398 検 35 専 3 他 1	女 66 検 13	女 29 検 9 他 1	女 81 検 17 専 5	女 369 検 7 他 21	女 272 検 2 他 21	女 88 検 4	女 4	女 1	女 4 検 1
	54.3	45.7					54.7	45.3				

(備考) 外国学校出身者のための選考を含む。 法学部……志願者 53名, 入学者 16名
経済学部…… “ 41名, “ 5名

